第22回

発掘展

令和元年7月24日（水）
～令和元年8月25日（日）

～夏休み！
子どものための
の考古学～

岡山古窯跡群から出土した円面硯（えんめんけん）

見どころ説明
7月24日（水）
10:00～10:30
（当日、自由参加）
小学6年生以上対象

弥生時代の久留倍遺跡（約2000年前）

弥生時代の久留倍遺跡の想像図

大矢知町で見つかった久留倍遺跡からは、弥生時代（約2000年前）にあったムラも見つかっています。久留倍遺跡では、弥生時代の人びとが生活に使っていた道具類が数多く見つかっています。

弥生土器　壺

貯蔵に用いられた土器です。壺の表面は、模様をつけて飾られています。

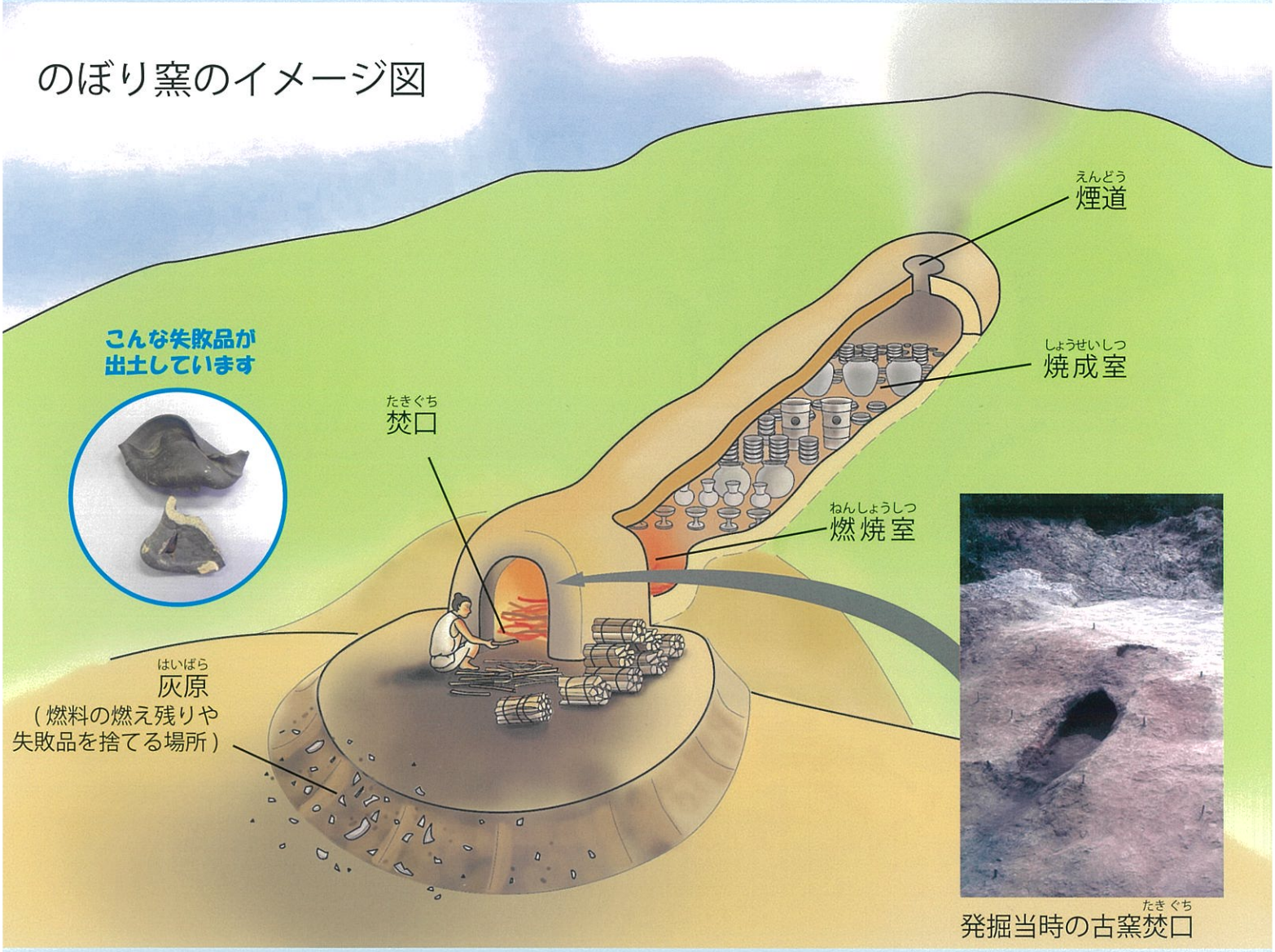
弥生土器　甕

土器の下半分は、まっ黒に煤けています。土器の中にお米などを入れて、煮炊きに使ったためです。

弥生土器　高坏

食べ物の盛り付けに用いられた土器です。

古墳時代の小杉大谷古窯址（約1500年前）



小杉町にあった5世紀後半から6世紀前半にかけての須恵器（野焼きで焼かれた弥生土器と異なり、硬くて割れにくい）の窯跡です。1973（昭和48）年に発掘されました。

窯の焚口から煙道までの長さは5.5mあり、3回も窯を修理しながら使っていたことがわかりました。

発掘当時の小杉大谷古窯（遠景）

復元された小杉大谷古窯（大谷台2号公園）

江戸時代の四日市代官所跡（約410～150年前）

現在の市内中心部は、享保9（1724）年～享和元（1801）年の大和郡山藩（今の奈良県）領時代を除くと江戸時代を通じて天領（幕府領）でした。

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、市内北町の中部西小学校の場所にありました。なお、代官所の建物は明治時代になると、三重県庁等として使われていましたが、明治9（1876）年にすべて焼失しました。

明治時代に描かれた代官所の絵 水谷百碩画
四日市市立博物館蔵

墨書された器

瀬戸で作られた蓋物です。墨入れとして使われていました。
「お以わさん大すきよ」と書かれています。

上からみた様子

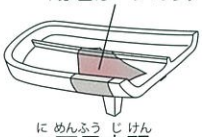
コラム　ほうきが展示されるまで

処理前

処理後

これは、「しゅろ」の木の皮で作られたほうきです。地中では地下水に守られていたため、腐らずにほうきの形を留めていました。ところが、空気に触れるとその瞬間から崩壊が始まってしまうので、水に漬けて保管していました。昨年、保存処理（特殊な薬品で固める作業）をしたので、このように見てもらえるようになりました。

こんな硯もあるよ！
くるべ古代歴史館で
さがしてみてね



二面風字硯

第22回　発掘展～夏休み！子どものための考古学～
◆会期　令和元年7月24日（水）～8月25日（日）
◆場所　四日市市立図書館　2階展示コーナー
◆編集　四日市市教育委員会　社会教育・文化財課
◆発行　四日市市教育委員会　令和元年7月24日